

古典
遊ぶ

春爛漫

春の陽気に誘われて…
舞えや! 謡えや!

狂言山

13:00開演(12:30開場) 60分休憩なし 0歳から入場可

みんなで楽しく狂言会

全席指定 1,000円(税込) 3歳以上有料
(3歳未満のお子さまでも、座席が必要な場合は有料となります)

解説: 茂山 茂
山 伏 主: 茂山宗彦
畑 主: 茂山千五郎
「柿山伏」
主 人: 茂山千之丞
太郎冠者: 茂山逸平
次郎冠者: 茂山 茂
「棒縛」



15:30開演(15:00開場)

お豆腐狂言会

A席 5,000円 B席 3,000円(全席指定/税込)
※未就学児童のご入場はご遠慮ください。

解説: 茂山千五郎
「福の神」
福の神: 茂山七五三
参詣人: 茂山宗彦
参詣人乙: 茂山逸平
「茶壺」
すっぱ: 茂山千五郎
中国の方者: 茂山千之丞
目代: 茂山あきら
「鶏簪」
智 主: 茂山竜正
男 主: 茂山逸平
太郎冠者: 茂山虎真
教え手: 茂山 茂

2027年4月11日(日) 兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール
〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22 阪急西宮北口駅南改札ロスグ/JR西宮駅より徒歩15分(阪急バス7分)

ご予約・お問合せ 芸術文化センターチケットオフィス 0798-68-0255 (10:00-17:00 月曜休み ※祝日の場合翌日)

一般発売 11/22(日)	チケット 予約	●芸術文化センター 0798-68-0255 https://www.gcenter-hyogo.jp ●チケットぴあ https://pia.jp/t/ ●ローソンチケット https://l-tike.com ●イープラス https://eplus.jp	芸術文化センター会員先行予約受付開始 11/21(土)
------------------	------------	--	-----------------------------

直接購入 芸術文化センター2階総合カウンター
[11/23(月・祝)より、残席がある場合のみ]

※車いす席はお電話でのみ販売しております。
※プレイガイドでの取扱については各プレイガイドにお問合せください。
※やむを得ない事情により、内容・出演者等が変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

主催: 兵庫県、兵庫県立芸術文化センター

古典遊ぶ 春爛漫 茂山狂言会

江戸時代から続く京都大蔵流・茂山千五郎家が贈る「春爛漫 茂山狂言会」。「みんなで楽しく狂言会」は、0歳から家族みんなで楽しめる公演。わかりやすい演目を揃え、解説付きで、気軽に一流の狂言に触れられる一時間です。「お豆腐狂言会」は、謡や舞が登場する賑やかで華やかな曲をお届け。うららかな春にぴったりの演目です。
茂山家勢ぞろいで、春の和らいをお届けします。春爛漫、春の陽気に誘われて——劇場へのお出かけはいかがですか？

みんなで楽しく狂言会

「柿山伏」

出羽の羽黒山の山伏が修行からの帰道、お腹がすいて、道端の柿の木に登って無断で柿を食べてしまいます。その様子を見つけ腹を立てた畑主は、木のかげに隠れた山伏を、「あれは烏だ」「猿だ」と言うてからかいます。正体がばれないよう、山伏は「コカアコカア」「キャアキャア」と鳴き真似をしますが…



撮影：桂 秀也

「棒縛」

主人の留守中にいつもこっそり家のお酒を飲んでしまう太郎冠者と次郎冠者。主人は、酒を飲まれないように二人をだまして棒に縛ってから出かけることにします。しかし、残された二人はその格好でもなんとか工夫してお互いに酒を飲ませ合うことに成功！酒盛りを始めてしまいます。そこに主人が帰ってきて…



撮影：桂 秀也

何でも「あるつもり」で演技をするのが「狂言」。その「つもり」の演技が十分に発揮される曲目です。山伏が柿の実をとろうとしているように見えるでしょうか？！

縛られた二人が酒を飲もうと必死に試行錯誤する姿がなんともおかしくかわいらしいです。不自由な身のまま舞うのは至難の技、ご注目ください！

お豆腐狂言会

「福の神」

毎年大晦日には神社へ参詣する二人の男。今年も連れ立って神社を訪れ、「福は内」と豆まきを始めます。するとどこからともなく笑い声が聞こえ、福の神が現れます。喜ぶ二人に、この福の神はなんと御神酒を要求します。二人があわてて御神酒を捧げると福の神は大喜びし、幸せになる秘訣を伝習し、大笑いして去っていきます。



撮影：桂 秀也

節分の豆まき行事は、古くは正月行事でした。見る人の心まで朗らかに楽しくさせる、縁起のよい狂言の名作です。

「茶壺」

主人の命令でお茶を買いにいった男が、帰道、酒に酔って道端で寝てしまいます。そこへ通りかかったすっぱ(詐欺師)は男が背負っている茶壺を盗もうとします。目を覚ました男は「自分のものだ」と主張しますが、すっぱも自分のものだと言い張ります。言い争っているところへ目代(代官)が仲裁に入りますが…

男を真似して。上手くいったと思ったら…



撮影：桂 秀也

男が目代へ説明する様子を盗み見て、真似して同じことを述べるすっぱ。二人が同じことを言うのでなかなか裁きが見つらず、そこで目代がとった行動とは！？

「鶏聲」

舅のもとへ聲入りの挨拶にでかけることになった聲は、聲入りの作法を教えてもらうために知人の家を訪ねます。しかし、いたずら心を出した知人に、鶏が鳴いたり、蹴り合う真似をするのが今風の聲入りの作法だと嘘を教えられてしまいます。そんなこととは知らない聲は舅のもとへ出かけ、いきなり鶏の真似を始めます。それを見た舅は…

古くは結婚の習慣として初めて聲が舅の家を訪ねる事を「聲入り」と言い、色々と作法があったようです。この聲入りを主題とした狂言は、他にも数曲ありますが、狂言に登場する聲は概して、聲入りをして大恥をかくことが多いのです。



撮影：桂 秀也



<https://www.gceneter-hyogo.jp>

兵庫県立芸術文化センター
Hyogo Performing Arts Center

先行予約会員へのご登録はこちら



便利なアクセス!!

大阪梅田からも神戸三宮からも
ホールまで15分
(阪急電車特急乗車の場合)

◎阪急 西宮北口駅 南改札口 スグ(連絡デッキで直結)

◎JR 西宮駅より徒歩15分(阪急バス7分)

※ご来場は、電車・バスなどの公共交通機関をご利用ください。

アクセス

